

終章

1. 理念・目的、教育目標の達成状況

本学の目的及び使命は、学則において明確に定めており、その目的の実現を通して社会的責任を果たしていかなければならない。この理念に立脚して、「倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する」、「医学の深奥をきわめ、優れた医療技術を開拓する」、「生命の尊厳を基調とし人類社会の医療と福祉に貢献する」ことを建学の精神とし理念としてきた。本学では、この良医の育成を基本理念として、医学教育や研究、良質の医療の推進という役割を担うため様々な努力がなされてきた。

その結果、多数の医学部卒業生が先端医療や高度の医学研究、医学教育の分野で、或いは地域医療を支える市井の実地医家として国内外で活躍している。また、看護の分野においても、看護学部および前身の看護専門学校の卒業生を含め多数の卒業生が地域医療、福祉を支える看護師として全国各地で活躍している。

これらの社会への貢献は、本学の建学の精神が教職員・学生のみならず、学生の父兄や支援団体にも浸透し、教育・修学に精勤した成果と捉えている。

本学は、建学の精神と教育理念に基づいて各学部・研究科で教育目標を定め、各々が「アドミッション・ポリシー」（入学者受入の方針）として求める学生像を明確にし、また、教育に関する基本方針として「カリキュラム・ポリシー」（教育課程編成・実施の方針）および「ディプロマ・ポリシー」（学位授与の方針）を明示するとともに、カリキュラムの概要や教育の特色などを本学のホームページで公開することにより、大学構成員はもとより社会に対する説明責任も果たしている。

その教育目標の達成度を測る指標の1つに、毎年実施される医師国家試験、看護師国家試験があるが、医師国家試験の成績は年度により多少の上下はあるが、新卒の合格者数からすると教育目標に沿った成果はある程度達成されていると判断している。看護師国家試験については、最初の卒業生から3年連続100%の合格率であり、教育目標に沿った成果は達成されていると判断している。

2. 優先的に取り組むべき課題

第一の課題は、2010（平成22）年に米国の ECFMG（Educational Commission for Foreign Medical Graduates）の公報が、2023（平成35）年以降の USMLE の受験資格は米国の認証評価基準等に基づく認証評価を受けた医科大学の卒業生に限定すると発表したように、医学教育の質が国際的に問われる時代となっていることである。そのため、今後本学が取り組んでいかなければならない最重要課題は、医学教育の質の改善と教育の成果（アウトカム）である医師国家試験の合格率を高い水準に維持することで、本学が質の高い教育を行っていることを学内外に発信することである。

第二の課題は、2015（平成27）4月に開校を予定している大学院看護学研究科修士課程を順調に立ち上げ、高度看護実践職者の育成と看護研究者・教育者の育成に繋げ、看護学教育の質向上と看護研究の活性化に寄与することである。

3. 今後の展望

これまで本学は、「良医を育てる」「知識と技術をきわめる」「社会に貢献する」という建学の精神を掲げて、医学教育の改革に取り組んできた。その結果、2013（平成 25）年 4 月現在、本学医学部卒業生は 3,608 名を数え、日本全国で全人的医療を担う良医として医療の中核を担っている。また、附属看護専門学校（卒業生 1,909 名）および平成 19 年に開設された看護学部（卒業生 124 名）合わせて 2,092 名を医療の重要な片翼をになうプロとして社会に送り出してきた。

その一方で、若年人口の減少、若者の理科離れ、受験生の首都圏集中などの外的要因をはじめとする構造的な問題も含め、地方の私立医科大学は厳しい状況に直面している。

しかし、2003（平成 15）年の医学教育モデル・コア・カリキュラムの公開に引き続き、共用試験 CBT・OSCE、卒後初期臨床研修制度の導入、医学部入学定員の増員などのめまぐるしいまでの医学教育環境の変化、また、文部科学省の中央教育審議会答申や医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議等の動向も踏まえて、本学は教職員一体となって教育組織の改編、教育カリキュラムの改革に積極的に取り組み、教育の質保証に取り組んできた経緯がある。

また、2008（平成 20）年度から、医学の進歩に伴う社会の求めるニーズの多様化や、医育機関出身者の活躍分野の広がりに対応するため、医学部卒前教育の 6 年間は、医師となるための「基盤形成の 6 年」、卒後の初期・後期臨床研修の 6 年間は「成長の 6 年」と位置づけ、両者を合わせた 12 年間は「医師として良医（プロフェッショナル）になるための重要な 12 年間」として、本学独自の「プロフェッショナル・キャリアパス・プラン」を策定し、実行している。

今後の取り組むべき課題としては、前述の「国際基準による医学教育の質保証」のための教育改革などがあるが、本学の卒業生が「人間性豊かな良医」として社会に貢献することこそが、本学の教育の最終目標であり、大学の理念の実践であり、本学の社会的使命であると教職員一同、日頃から考えており、将来に向かって教職員が一体となって絶えざる改善の努力をし、大学のあるべき姿を追求する所存である。